

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400183		
法人名	ケアサブライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームかりん		
所在地	群馬県伊勢崎市寿町 70-1		
自己評価作成日	平成27年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成27年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 残存能力を活かし自立支援につなげている。 2. 利用者様の笑顔を引き出せるように努力している。 3. まだこれからの課題もあるが、利用者家族とより良い関係を築き信頼関係を確立する。 4. 地域密着型のグループホームの特性を生かし、これからも地域の方達と交流を深めていきたい。 5. 職員が、ここで働きたいと思えるような職場づくりを心がける。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家族来訪時に事業所の行事として行っている敬老会、誕生会の様子や利用者の日常生活を映像で見てもらい、家族等に実感として伝える取り組みを行っている。災害発生時に慌てずに利用者職員と一緒にスムーズに避難が出来るよう、毎月1度自主訓練を実施して不測の事態に対応出来るように日頃から実践的に行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様のライフスタイルを把握しその人らしい生活を支援しますと理念に掲げ、管理者と職員と共有し実践につなげている。	入居者のライフスタイルに注目し、その支援を盛りこんだ理念が作成されている。全員が共通認識を持って支援に努めている。日常的に問題を感じた時には、その場或いは個別で注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々がボランティアとして慰問に定期的に来て下さり、また近くのコンビニへ職員と一緒に買い物に行ったりして、地域の一員として日常的に交流している。	利用者の家族や民生委員がギターやハンドベルの演奏のボランティアで来訪している。運営推進会議時に区長から地域情報をいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームかりんは4月に開所してまだ間もなく少しでも認知症の人達の理解を地域の方々から、得られるように交流を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の代表である区長さんを始めとし各役員の方がたや、利用者様家族の皆さんより、かりんからの活動報告に対して意見を頂いています。	定期的な開催に至っていない。開設後2回開催し、家族・市職員・民生委員・区長(代理)等が参加し、事業所より活動・行事報告、法人の家族アンケート結果報告・利用者の様子を知らせている。	年に6回定期的に開催し、事業所の状況を地域関係者や家族と話し合い、開かれた事業所となるように努力してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者さまと、常に連絡を密に取りまた、運営推進会議にも毎回出席して頂き、かりんの実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築いている。	法人課長が市の関係窓口を訪ね、事業所の情報を伝えたり相談事や意見交換を行い、その内容を事業所に伝えて双方の連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠については、開錠の取り組みをしていたが12月に離苑者が出てしまい、ご家族様よりも開錠では家は無理です。と指摘があり考慮中です。	ふらっと出ていく利用者がいるため、心配ということで玄関は施錠されている。居室と共用空間は開錠されている。	玄関の施錠は身体拘束という認識の下、抑圧感の無い生活支援のために専門職としての工夫及び開錠のリスクも含め家族と話し合い、鍵をかけないケアへの検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議に於いて定期的に高齢者虐待法について学び、事業所内での虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度について、職員個々において理解しているが、今後は確認の意味を含めて職員会議の時に勉強する機会を設けたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族からは直接聞き取り、また玄関にも自由に意見を書いて頂ける様に用紙や投函箱を用意しています。	利用者との会話や日頃の言動から把握し、家族の要望等は来訪時や電話で聞いている。知り得た情報は記録に残したり、朝の申し送りで話し合い、職員は共通の認識で運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの時や、職員会議の時に意見や提案を聴く機会を設けています。皆で話し合い反映しています。	朝の申し送りや職員会議で意見・提案・要望等を聞いている。法人担当者・管理者・職員による三者面談を行い、産休や育休等の希望や提案を直接聞く機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通じて各職員が向上心を持って働けるようバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は毎年行っています。教育委員会により勉強会を行いそのまとめを職員同士で確認し合い、法人外研修に関しては案内が来たものに関しては、皆で回覧して機会を設けるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりに努めています。相互訪問等の活動は、これからの課題になります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階においては、こまめに連絡を取り不安な事、要望等を聞き本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望には出来るだけ応えられる様に心がけている。家族会も定期的に行い、話し合いの場を設けている。あまりホームに来られないご家族には電話連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	迅速な対応をし、他の機関との連携を行い、必要としている支援と一緒に考え提供に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは家庭生活の延長であるので、生活を共にすることで教えて頂く事もたくさんあるので敬意を持って対応していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族会や電話連絡を行い、ご家族様にも日々の出来事や情報を共有してもらうことで絆を大切にしながら共に支援をしていく体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と連絡を取り、今までの関係が保たれるように、支援に努めています。	家族・友人・近隣の人等が訪問しており、話し易い雰囲気を作り、馴染みの人との関係継続を支援している。在宅時の趣味であった読書・絵手紙・ちぎり絵等を継続して楽しめるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性もあり、ご本人の気持ちを大切に利用者が、関わっていけるように支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、フォロー、相談、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人一人の思いや暮らし方の希望、意見については、日々のケアの中で、本人から会話の中などから確認しています。	利用者と生活を共にする中で、日常の会話や言動等から思いや暮らしの要望を汲み取るようにしている。家族からは面会時や電話等で確認している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族より、生活歴や馴染みの暮らし方を聞いて把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が利用者の状態が分かるように、申し送り帳をいつでも見れるようにしていたり、細かな事でもケア記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で本人から希望を聞いたり、家族とも話し合い、毎月のカンファレンスにて現状に即した介護計画を作成しています。	本人や家族等の意向を基に作成している。毎月モニタリングを行い、介護計画の見直しは3ヶ月に1度行われている。状態等に変化が見られた際は随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録やケア記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望時は、事務所の電話を利用し、電話をかけたり、取り次ぎを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には、利用者様と共に参加し、ホーム内では、ボランティア体操等を定期的に行い、地域の方との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人や家族より希望を伺い、納得が得られた掛かり付け医とホームとの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人・家族等に希望するかかりつけ医を選択出来る事を説明している。従来のかかりつけ医の受診は家族対応となっている。協力医は月に1度の往診があり緊急時にも対応している。必要時に訪問歯科支援を受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看が来苑し、いつでも連絡が取れるようになっている。毎日バイタルチェックを行い、体調不良や普段と様子が違う方が居たら、記録に残し職員協力しあい、連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。また関係づくりにも努力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これからの課題と考えています。早めに取り組み少しずつ本人や家族とも話し合っていきたいと考えています。	「重度化対応・終末期対応指針」を重要事項説明書に記載し、入居時に説明している。家族や医療関係者と連携を図り、段階的に状況の変化に合わせて話し合い、希望に沿った対応を考えている。職員会議や推進会議等で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応のマニュアルに従い確認や訓練を定期的に行い、実践力を身につけるように、努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に協力を頂き火災、地震、水害ときには安全に避難する場所を提供して頂けるようお願いしています。毎月1回自主避難訓練を行っています。	年に2回、消防署立会いで昼間想定 of 災害時避難訓練を行っている。自主訓練は毎月1度実施している。備蓄として3週間分の飲料水と乾物等の食料品の用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で対応の仕方や言葉遣いには、特に注意を払い誇りやプライバシーを損ねないよう努力しています。	利用者に対して子供扱いしたり、強い口調で接することの無い様になっている。言葉遣いに配慮し利用者と同じ目線で接することと相手の言葉を否定することの無い対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出したり、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中に一人一人のペースを取り入れ、希望に添うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔、整髪から、その方らしい身だしなみを職員と一緒に考える事もある。又、訪問美容室をお願いして女性として輝けるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを取り入れるように心がけています。今のところ準備は課題、食事は一緒に摂り後片付けも一緒に行っています。	利用者の嗜好を考慮しながら担当者が献立を作り食事は利用者と職員と一緒に摂っている。おせち料理や七草粥など行事食を取り入れたり外食の機会がある。	飲み物は事業所で用意している飲み物を知らせて(お茶・コーヒー・紅茶・牛乳等)、希望する物を提供してはいかか。メニューを見てもらう等検討してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施記録に食事量や水分摂取量を記入し一人一人の状態や力、習慣を把握して本人に応じた支援を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在、洗面所への誘導や声掛け、手渡しなどの一部介助で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在はリハパンと尿とりパット使用者のみです。一人一人の排泄のパターンを観察し自立にむけた支援を行っています。	利用者個々の排泄パターンを把握し、適時声かけをしてトイレでの排泄支援に努めている。失禁時には清拭やシャワー浴で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様、適度に水分を摂取して頂き一日の水分量を記録している。また、毎日の体操も行っている。必要な時は看護師に報告して薬を使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおよその日程を決め本人の希望に合わせて入浴を楽しんで頂いています。希望があれば毎日入浴を行います。しかし、入浴があまり好きでない方もおり、気持ちよく入浴して頂けるように工夫しています。	基本的には週2回と決められているが、希望があればいつでも対応できる。入浴拒否の場合は声かけの工夫をしている。	利用者全員に入浴の声かけを毎回行い、個々の希望に合わせての入浴支援につないでほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室へは自由に出入りを行って頂き、好きな時に休んで頂いています。夜間は4回巡視を行って、安心して休んで頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一人一人の薬の確認と、情報の共有をして理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人一人一人のできる事を見つけ役割や、楽しみ事、気分転換等の支援を行っています。食後の食器拭き、テーブル拭き、お盆拭き、洗濯物畳み、塗り絵、ちぎり絵、歌を唄う、音楽を聴く等。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年になってからは地域の方の協力を頂き、初詣、外食に行く事が出来た。ホームの中に居る時とまた違った雰囲気を味わうことが出来た。今後も継続する。	近隣の散歩、菜園での野菜やイチゴ栽培、化粧品等の買物で屋外に出て気分転換を図るよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理をすることが出来る方はほぼおらず、預り金を用意していつでも必要な時には、使う事が出来ます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望によりいつでも電話を掛ける事は出来ます。手紙のやり取りはこれから取り組みたいと思います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも快適に過ごせるように清潔を保っています。また、季節に合わせた花を飾って言い心地よく過ごせて、利用者様が自然と集まれるようにしています。	利用者の作品や行事の写真等が掲示されている。畳のスペースや季節の花を飾り季節感を感じてもらおう配慮等、利用者が居心地良く過ごせる場に見受けられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人がお気に入りの場所を決め、テレビを見たり、気の合ったもの同士でおしゃべりしたりして思い思いに過ごしています。また一人でいたい方もいて、同じ空間の中で一人自席にて過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望により使い慣れた家具や小物を用意して頂き、本人が気持ちよく過ごせる工夫をしています。	ベッド・エアコンが設置されており、趣味の物・家族の写真・化粧品等が置かれている。嫌な臭いは無く整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできる事やわかることを把握して、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように、工夫しています。		